



帯中卒業式に参列しました

先週8日(金)に帯中卒業式に招かれましたので、参加しました。今年は生徒数が減少したとはいえ、296人が参加し、学校一丸となって式に臨む姿が素晴らしかったです。卒業式は、学校行事の式の中で、もっとも厳粛に行われます。その厳粛な空気の中で、涙ぐむ卒業生の姿からは、感謝の思いが伝わってきました。



中学校を卒業するということは同時に、義務教育を修了するということであり、社会を創っていく大人に加わる準備が整ったということです。また、多くの卒業生は、高校などへ進学する社会の一員として、自分の能力を一層磨くために学んでくれることでしょう。そういうこれからの未来を築こうとする姿が、卒業証書を受け取っている卒業生の姿から伝わってきました。

最後に卒業生全員がひな壇に並んで、合唱してくれました。「群青」を歌い、「涙のあとにも 見上げた夜空に 希望が光っているよ 僕らを待つ帯山の街で きっとまた会おう あの街で会おう 僕らの約束は 消えはしない 帯山の絆 また会おう 帯山の街で」と全力で或いは感極まって歌う姿がありました。

帯中校区の子供たちが、自分の未来に向かって、自分の足で歩き出そうとしている姿を目に焼き付けて、会場を後にしました。次はいよいよ帯西の卒業式です。

ミモザの花に込められた思い

8日(金)は、国連が定めた「国際女性デー」でした。女性の権利と政治的、経済的分野への参加を盛り立てていくために、1977年定められました。この日は「ミモザの日」とも呼ばれ、黄色いミモザの花がシンボルとなっています。



この3月8日という日ですが、100年以上前の1904年にアメリカ・ニューヨークで女性たちが参政権を求めてデモを起こした日にちなんでいます。女性の「男性ばかりの参政権はおかしい」と女性たちが立ち上がったのです。当時の「当たり前」に風穴を開け、行動を起こし、女性の参政権が州ごとに可決され、1920年にアメリカ合衆国憲法を修正し、「投票権における合衆国および各州の性差別禁止」として発効しました。ちなみに、日本では1946年に女性の参政権が行使されています。

このように、「おかしい」「どうして?」と思う気持ちはとても大切で、心に違和感を感じるがあったら、それを勇気をもって声に出すことで、見えない「当たり前」や「普通」に縛られている自分を解放するきっかけになるかもしれません。私は、ミモザの花を見ると、その思いを大切にするようにしています。